

きょうだい関係と意識 — 2. 子供観調査による検討(2) —

A Study on Sibling Relations and Consciousness

— 2. Investigation by Survey of Views for Child (2) —

白 佐 俊 憲

Toshinori SHIRASA

I はじめに

この報告は、「きょうだい関係と意識」というテーマで、青年後期の女子（短期大学1年目学生、2085人）を対象に「きょうだい関係（出生位置・出生順位など）によって意識（意見・態度）面での差異が認められるかどうか」を質問紙形式で調査し、多面的に実証的な検討を試みた探索的研究の第2報である。次にあげる「子供観に関する14項目」のうち、誌面制限の関係で、①から⑦までの結果は第1報（本誌前号）¹⁾で報告したので、ここでは⑧から⑭までの結果を報告する。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ① 理想的な子供数 | ⑧ 子供についての考え方 |
| ② 自分が産みたい子供数 | ⑨ 一人っ子を避ける理由 |
| ③ 自分が産むつもりの子供数 | ⑩ 子供を増やすことについての考え |
| ④ 3人以上産みたい理由 | ⑪ 1人しか産めない場合の子供の性の希望 |
| ⑤ 産むつもりの子供数が少ない理由 | ⑫ 男の子がほしい理由 |
| ⑥ 男女の産み分けの希望 | ⑬ 女の子がほしい理由 |
| ⑦ 子供の年齢差の希望 | ⑭ 女の子をほしがらる理由 |

なお、本研究の意義・目的等については、できるだけ説明の重複を避け、データの掲載に誌面を多く割く意味で、第1報の「I はじめに」を参照願うことにして、ここでは省略する。

II 方法

本研究の方法については、第1報の「II 方法」で述べたので、ここでは省略する。

III 結果及び考察

ここでは、第1報の「III 結果及び考察」に続く形で見出し項目を設定し、続きを述べる。

なお、誌面の制限の関係で、具体的な集計データは「出生位置による分類」の結果を主にして、他については、有意差のある結果が得られた場合にだけ示すことにする。それ以外は集計データを省略し、結論だけを述べるにとどめることを、あらかじめ断っておく。

10. 子供についての考え方

子供についての考え方は、次のように設問し、以下に示すような回答を得た。

【質問7】子供について、あなたはどのような考えをもっていますか。次の意見の中から、あなたの考えに最も当てはまるもの一つに○印をつけて下さい。

- a. 子供は家の跡継ぎとして必要である。
- b. 子供は国の将来の発展にとって必要である。
- c. 親にとって、子供は老後の支えとなる。
- d. 子供がいると、家庭が明るく楽しくなる。
- e. 結婚したら子供を産むのは当然である。
- f. その他 ()

(1) 出生位置別検討

表 26 は、全対象者の結果を出生位置別（長子 896 人・中間子 233 人・末っ子 790 人・一人っ子 166 人）に分けて整理したものである。表 26 に示すように、対象者全体の場合、「d. 子供がいると、家庭が明るく楽しくなる」という考えの者が 74.1% を占め、圧倒的に多い。「a. 子供は家の跡継ぎとして必要である」や「e. 結婚したら子供を産むのは当然である」という考えはごく少数にすぎない。全対象者の出生位置別比較では、どの群とも同様な結果になっている。検定の結果、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

出生位置別の差異をより厳密な条件で検討するため、二人っ子について長子 (667 人) と末っ子 (572 人) に分け、また、三人っ子について長子 (210 人)・中間子 (191 人)・末っ子 (193 人) に分けて、表 26 と同様な方法で集計し比較してみた。その結果、データとしても一定の傾向は認められず、また、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

(2) きょうだい数別検討

きょうだい数別検討では、一人っ子 (166 人)・二人っ子 (1239 人)・三人っ子 (594 人)・四

表 26 子供についての考え（出生位置別，全対象者）

単位：人（%）

子供数	対象者全体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一 人 っ 子	備 考
d	1545 (74.1)	686 (76.6)	168 (72.1)	573 (72.5)	118 (71.1)	検定の結果、どの群間でも有意差なし。
b	197 (9.4)	74 (8.3)	29 (12.4)	77 (9.7)	17 (10.2)	
c	167 (8.0)	68 (7.6)	18 (7.7)	61 (7.7)	20 (12.0)	
e	59 (2.8)	20 (2.2)	6 (2.6)	27 (3.4)	6 (3.6)	
a	44 (2.1)	13 (1.5)	5 (2.1)	24 (3.0)	2 (1.2)	
f	73 (3.5)	35 (3.9)	7 (3.0)	28 (3.5)	3 (1.8)	
合 計	2085 (99.9)	896(100.1)	233 (99.9)	790 (99.8)	166 (99.9)	

注) ここでは、頻度順に並べ替えて示した。

人以上(86人)について、表26と同様な方法で集計し比較した。その結果、きょうだい数の増加に伴う一定の増減傾向が認められるものはなく、検定の結果、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

(3) 出生順位別検討

出生順位別検討では、第1子(1062人)・第2子(778人)・第3子以降(245人)について、表26と同様な方法で集計し比較した。その結果、データとしても出生順位に伴う一定の傾向は認められず、検定の結果、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

(4) 性別構成別検討

性別構成の違いによる検討では、第1報の「II方法3」の「(4)性別構成による分類」で示した分類と対象数(二人っ子：男1人650人，女1人589人。三人っ子：男2人124人，男1女1人307人，女2人163人。二人っ子：兄がいる者314人，弟がいる者336人，姉がいる者258人，妹がいる者331人)について、表26と同様な方法で集計し比較した。その結果、一定の傾向も統計的な有意差も認められない。

以上のように、どのきょうだい関係の検討からも、きょうだい関係と「子供についての考え」との間に何らかの関係があるという結果は得られていない。

11. 一人っ子を避ける理由

一人っ子を避ける理由については、次のように設問し、以下に示すような回答を得た。

【質問8】一般に、家庭の子供数を考える場合、「一人っ子」を避けようとする傾向がありますが、それはどのような理由からだと思われますか。次の中から選んで記号に○印をつけて下さい。いくつ選んでもかまいません。そのうち、あなたの考えに最も当てはまるものに◎印をつけて下さい。

- a. きょうだいがいないと、子供の成長に好ましくないから。
- b. 1組の夫婦で子供1人では、日本の人口が減ってしまうから。
- c. 子供が1人では、老後が心細いから。
- d. 世間で2人以上必要だといわれているから。
- e. 子供が1人では、子供が死んでしまった場合困るから。
- f. 子供を2人以上育てるのは社会的義務であるから。
- g. 子供が1人では、家庭がさびしいから。
- h. 子供には、成人してからも助け合えるきょうだいが必要だから。
- i. その他()

(1) 出生位置別検討

表27に示すように、対象者全体の場合、一人っ子を避ける理由は、「h. 子供には、成人してからも助け合えるきょうだいが必要だから」、「a. きょうだいがいないと、子供の成長に好ましくないから」、「g. 子供が1人では、家庭がさびしいから」の三つが多く、特にhの理由が多く選択されている。当てはまるものすべてを集計した表28の場合でも、同様な結果となっ

表 27 一人っ子を避ける理由 1 (出生位置別, 全対象者)

単位：人 (%)

理由	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一人っ子	備 考
h	989 (47.4)	426 (47.5)	95 (40.8)	375 (47.5)	93 (56.0)	検定の結果, 注 2 に示す群間で 有意差あり。
a	794 (38.1)	340 (37.9)	105 (45.1)	308 (39.0)	41 (24.7)	
g	227 (10.9)	97 (10.8)	32 (13.7)	75 (9.5)	23 (13.9)	
その他	75 (3.6)	33 (3.7)	1 (0.4)	32 (4.1)	9 (5.4)	
合 計	2085(100.0)	896 (99.9)	233(100.0)	790(100.1)	166(100.0)	

注 1) 最も当てはまるもの一つの場合。ここでは、頻度順に並べ替えて示し、回答数の少なかった b・c・d・e・f は i と合わせて「その他」とした。

注 2) 中間子と長子・末っ子・一人っ子との間で各 1%水準で有意、及び一人っ子と長子 (5%水準)・末っ子 (1%水準) との間で有意。

表 28 一人っ子を避ける理由 2 (出生位置別, 全対象者)

単位：人 (%)

理由	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一人っ子
h	1754(84.1)	758(84.6)	189(81.1)	664(84.1)	143(86.1)
a	1530(73.4)	664(74.1)	186(79.8)	592(74.9)	88(53.0)
g	1154(55.3)	489(54.6)	140(60.1)	436(55.2)	89(53.6)
c	216(10.4)	87(9.7)	23(9.9)	84(10.6)	22(13.3)
e	134(6.4)	44(4.9)	18(7.7)	57(7.2)	15(9.0)
b	91(4.4)	39(4.4)	7(3.0)	35(4.4)	10(6.0)
その他	97(4.7)	40(4.5)	9(3.9)	38(4.8)	10(6.0)
基準数	2085	896	233	790	166

注) 当てはまるものすべての場合。ここでは、頻度順に並べ替えて示した。

ている。全対象者の出生位置別比較では、一人っ子が「h. 子供には、成人してからも助け合えるきょうだいが必要だから」という理由をより多くあげ、中間子が「a. きょうだいがいないと、子供の成長に好ましくないから」という理由をより多くあげている点に特徴がある。検定 (χ^2 検定, 以下すべて同じ) の結果、長子と末っ子の間以外では、統計的に有意な差が認められる。ただし、調査の実施年によって分け、結果の一貫性(安定性)を確認したところ、1994年 (1157人) の結果では、一人っ子と中間子・末っ子との間で有意差が認められるが、1993年 (928人) の結果では、どの群間でも有意差が認められない。

出生位置別の差異をより厳密な条件で検討するため、二人っ子について長子と末っ子に分け、また、三人っ子について長子・中間子・末っ子に分けて、表 27 と同様な方法で集計し比較してみた(表 29)。結果は、表 27 の傾向を大筋において裏づけるものである。検定の結果は、三人っ子の中間子と長子・末っ子との間で統計的な有意差が認められる。ただし、結果の一貫性を確認したところ、1993年の結果では、三人っ子の長子と中間子との間で有意差が認められるが、1994年の結果では、どの群間でも有意差が認められない。

表 29 一人っ子を避ける理由 1 (出生位置別, 二人っ子・三人っ子) 単位: 人(%)

理 由	二 人 っ 子		三 人 っ 子			備 考
	長 子	末 っ 子	長 子	中 間 子	末 っ 子	
h	314 (47.1)	278 (48.6)	105 (50.0)	76 (39.8)	83 (43.0)	検定の結果, 注 2に示す群間で 有意差あり。
a	255 (38.2)	226 (39.5)	75 (35.7)	87 (45.5)	74 (38.3)	
g	76 (11.4)	48 (8.4)	20 (9.5)	28 (14.7)	25 (13.0)	
その他	22 (3.3)	20 (3.5)	10 (4.8)	0 (-)	11 (5.7)	
合 計	667(100.0)	572(100.0)	210(100.0)	191(100.0)	193(100.0)	

注1) 最も当てはまるもの一つの場合。ここでは、頻度順に並べ替えて示し、回答数の少なかったb・c・d・e・fはiと合わせて「その他」とした。

注2) 三人っ子の中間子と長子・末っ子との間で、各1%水準で有意。

表 30 一人っ子を避ける理由 1 (きょうだい数別, 全対象者) 単位: 人(%)

理 由	全 体	一人っ子	二人っ子	三人っ子	四人以上	備 考
h	989 (47.4)	93 (56.0)	592 (47.8)	264 (44.4)	40 (46.5)	検定の結果, 注 2に示す群間で 有意差あり。
a	794 (38.1)	41 (24.7)	481 (38.8)	236 (39.7)	36 (41.9)	
g	227 (10.9)	23 (13.9)	124 (10.0)	73 (12.3)	7 (8.1)	
その他	75 (3.6)	9 (5.4)	42 (3.4)	21 (3.5)	3 (3.5)	
合 計	2085(100.0)	166(100.0)	1239(100.0)	594 (99.9)	86(100.0)	

注1) 最も当てはまるもの一つの場合。ここでは、頻度順に並べ替えて示し、回答数の少なかったb・c・d・e・fはiと合わせて「その他」とした。

注2) 一人っ子と二人っ子(1%水準)・三人っ子(1%水準)・四人以上(5%水準)との間で有意。

(2) きょうだい数別検討

きょうだい数別検討では、一人っ子・二人っ子・三人っ子・四人以上について、表27と同様な方法で集計し比較した(表30)。その結果、一人っ子とその他の群との間に、一人っ子を避ける理由に差異が認められ、統計的に有意な差もある。ただし、結果の一貫性を確認したところ、1994年の結果では、一人っ子とその他の群との間に有意差が認められるが、1993年の結果では、どの群間でも有意差は認められない。

(3) 出生順位別検討

出生順位別検討では、第1子・第2子・第3子以降について、表27と同様な方法で集計し比較した。その結果、群間ではほとんど差異は認められず、統計的に有意な差も認められない。

(4) 性別構成別検討

性別構成の違いによる検討では、第1報の「II方法3」の「(4)性別構成による分類」で示した分類と対象数について、表27と同様な方法で集計し比較した。その結果、群間ではほとんど差異は認められず、統計的に有意な差も認められない。

以上のことから、出生位置・きょうだい数の検討において、群間に若干の差異が認められたが、結果の一貫性がなく、結局、きょうだい関係と「一人っ子を避ける理由」との間に何らかの関係があるという結果は得られていない。

12. 子供を増やすことについての考え

子供を増やすことについての考えは、次のように設問し、以下に示すような回答を得た。

【質問9】最近是一般に、子供をあまり多く産まなくなっていますが、将来のために考えた場合、もっと増やす(産む)べきだと思いますか。それとも、もっと減らす(産まない)ようにすべきだと思いますか。次の中から、あなたの考えに最も当てはまるものを一つ選んで、記号に○印をつけて下さい。

- a. もっと増やす(産む)ようにすべきである。
- b. もっと減らす(産まない)ようにすべきである。
- c. 今のままがよい。
- d. その他()

(1) 出生位置別検討

表31に示すように、対象者全体的の場合、「c. 今のままがよい」という考えの者が65.9%を占め、圧倒的に多い。「a. もっと増やす(産む)ようにすべきである」というのも29.1%いる。「b. もっと減らす(産まない)ようにすべきである」はごく少数である。全対象者の出生位置別比較では、一人っ子で「a. もっと増やす(産む)ようにすべきである」が多く、「c. 今のままがよい」が少ない傾向にあるが、検定の結果は、どの群間でも有意な差は認められない。

出生位置別の差異をより厳密な条件で検討するため、二人っ子について長子と末っ子に分け、また、三人っ子について長子・中間子・末っ子に分けて、表31と同様な方法で集計し比較してみた。その結果、データとしても一定の傾向は認められず、また、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

(2) きょうだい数別検討

きょうだい数別検討では、一人っ子・二人っ子・三人っ子・四人以上について、表31と同様な方法で集計し比較した(表32)。結果は、一人っ子と二人っ子との間で有意な差が認められるが、きょうだい数の増加に伴う一定の増減傾向は認められない。また、調査の実施年によって分け、結果の一貫性を確認したところ、1993年の結果では、一人っ子と二人っ子との間に有意差が認められるが、1994年の結果では有意差は認められない。

表31 子供を増やすことについての考え(出生位置別, 全対象者) 単位: 人(%)

考 え	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一人っ子	備 考
a	607 (29.1)	251 (28.0)	72 (30.9)	228 (28.9)	56 (33.7)	検定の結果, どの群間でも有意差なし。
b	25 (1.2)	11 (1.2)	1 (0.4)	10 (1.3)	3 (1.8)	
c	1375 (65.9)	599 (66.9)	154 (66.1)	526 (66.6)	96 (57.8)	
d	78 (3.7)	35 (3.9)	6 (2.6)	26 (3.3)	11 (6.6)	
合 計	2085 (99.9)	896(100.0)	233(100.0)	790(100.1)	166 (99.9)	

表 32 子供を増やすことについての考え（きょうだい数別，全対象者） 単位：人（％）

考 え	全 体	一人っ子	二人っ子	三人っ子	四人以上	備 考
a	607 (29.1)	56 (33.7)	334 (27.0)	185 (31.1)	32 (37.2)	検定の結果，一人っ子と二人っ子との間で5％水準で有意差あり。
b	25 (1.2)	3 (1.8)	12 (1.0)	9 (1.5)	1 (1.2)	
c	1375 (65.9)	96 (57.8)	851 (68.7)	380 (64.0)	48 (55.8)	
d	78 (3.7)	11 (6.6)	42 (3.4)	20 (3.4)	5 (5.8)	
合 計	2085 (99.9)	166 (99.9)	1239(100.1)	594(100.0)	86(100.0)	

表 33 子供を増やすことについての考え（出生順位別，全対象者） 単位：人（％）

考 え	全 体	第 1 子	第 2 子	第 3子以降	備 考
a	607 (29.1)	307 (28.9)	210 (27.0)	90 (36.7)	検定の結果，第2子と第3子以降との間で1％水準で有意差あり。
b	25 (1.2)	14 (1.3)	6 (0.8)	5 (2.0)	
c	1375 (65.9)	695 (65.4)	540 (69.4)	140 (57.1)	
d	78 (3.7)	46 (4.3)	22 (2.8)	10 (4.1)	
合 計	2085 (99.9)	1062 (99.9)	778(100.0)	245 (99.9)	

(3) 出生順位別検討

出生順位別検討では，第1子・第2子・第3子以降について，表31と同様な方法で集計し比較した(表33)。結果は，第2子と第3子以降との間で有意な差が認められるが，全体のデータとして出生順位に伴う一定の傾向は認められない。また，結果の一貫性を確認したところ，1994年の結果では，第2子と第3子以降との間に有意差が認められるが，1993年の結果では有意差は認められない。

(4) 性別構成別検討

性別構成の違いによる検討では，第1報の「II 方法 3」の「(4)性別構成による分類」で示した分類と対象数について，表31と同様な方法で集計し比較した。その結果，群間ではほとんど差異は認められず，統計的に有意な差は認められない。

以上のように，一部のきょうだい関係で有意差が認められる場合もあるが，意味のある形できょうだい関係と「子供を増やすことについての考え」との間に関係があるという結果は得られていない。

13. 1人しか産めない場合の子供の性の希望

1人しか産めない場合の子供の性（性別）の希望については，次のように設問し，以下に示すような回答を得た。

【質問11】もし将来，1人しか子供ができない（産めない）としたら，あなたならどちらの性の子供がほしいですか。次の中から選んで，記号に○をつけて下さい。

a. 男の子。

c. どちらでもよい。

b. 女の子。

d. わからない。

(1) 出生位置別検討

表 34 に示すように、対象者全体の場合、「どちらでもよい」という者が 36.8% で最も多い。そして、男の子を希望するか女の子を希望するかでは半々であるが、女の子を希望する者のほうがわずかに上回った結果になっている。なお、全対象者の出生位置別比較では、一人っ子で女の子を希望する者が多い傾向にある。しかし、検定の結果は、どの群との間でも統計的に有意な差は認められない。

出生位置別の差異をより厳密な条件で検討するため、二人っ子について長子と末っ子に分け、また、三人っ子について長子・中間子・末っ子に分けて、表 34 と同様な方法で集計し比較してみた(表 35)。その結果、二人っ子の長子と末っ子の間では全対象者と同様な傾向を示し、統計的に有意な差も認められるが、三人っ子の間ではむしろ違った傾向にあり、一貫性がみられない。また、結果の一貫性を確認したところ、1993 年の結果では、二人っ子の長子と末っ子との間に有意差が認められるが、1994 年の結果では有意差は認められない。

(2) きょうだい数別検討

きょうだい数別検討では、一人っ子・二人っ子・三人っ子・四人以上について、表 34 と同様な方法で集計し比較した(表省略)。その結果、きょうだい数が増加するにつれて男の子を希望する率が高くなり、女の子を希望する率が低くなる傾向が認められるが、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

表 34 1人しか産めない場合の子供の性の希望(出生位置別, 全対象者) 単位: 人 (%)

希 望	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一人っ子	備 考
a	584 (28.0)	238 (26.6)	65 (27.9)	240 (30.4)	41 (24.7)	検定の結果、どの群間でも有意差なし。
b	622 (29.8)	276 (30.8)	66 (28.3)	224 (28.4)	56 (33.7)	
c	768 (36.8)	327 (36.5)	86 (36.9)	290 (36.7)	65 (39.2)	
d	111 (5.3)	55 (6.1)	16 (6.9)	36 (4.6)	4 (2.4)	
合 計	2085 (99.9)	896(100.0)	233(100.0)	790(100.1)	166(100.0)	

表 35 1人しか産めない場合の子供の性の希望
(出生位置別, 二人っ子・三人っ子)

単位: 人 (%)

希 望	二 人 っ 子		三 人 っ 子			備 考
	長 子	末 っ 子	長 子	中 間 子	末 っ 子	
a	167 (25.0)	174 (30.4)	64 (30.5)	50 (26.2)	58 (30.1)	検定の結果、二人っ子の長子と末っ子との間で5%水準で有意差あり。
b	214 (32.1)	160 (28.0)	57 (27.1)	56 (29.3)	60 (31.1)	
c	243 (36.4)	216 (37.8)	77 (36.7)	71 (37.2)	64 (33.2)	
d	43 (6.4)	22 (3.8)	12 (5.7)	14 (7.3)	11 (5.7)	
合 計	667 (99.9)	572(100.0)	210(100.0)	191(100.0)	193(100.1)	

(3) 出生順位別検討

出生順位別検討では、第1子・第2子・第3子以降について、表34と同様な方法で集計し比較した(表省略)。その結果、出生順位が後になるにつれて男の子を希望する率が高くなり、女の子を希望する率が低くなる傾向が認められるが、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

(4) 性別構成別検討

性別構成の違いによる検討では、第1報の「II 方法 3」の「(4)性別構成による分類」で示した分類と対象数について、表34と同様な方法で集計し比較した。その結果、表36・37に示すような差異が認められ、統計的に有意な差も認められる。必ずしも明確な傾向とは言えないが、男のきょうだいがいる者では男の子を希望する率が高く、女のきょうだいがいる者では女の子を希望する率が高い。ただし、結果の一貫性を確認したところ、1994年の結果では、二人っ子の男1人と女1人との間に有意差が認められるが、他の群間では有意差は認められないし、1993年の結果では、すべての群間で有意差は認められない。また、1994年の結果では、二人っ子の「妹がいる者」と「兄がいる者」・「弟がいる者」との間に有意差が認められ、1993年の結果では、「妹がいる者」と「兄がいる者」との間に有意差が認められる。

以上のように、必ずしも明確な結果とはなっていないが、一部のきょうだい関係で有意な差が認められ、1人しか産めない場合の子供の性の希望は、きょうだいの性別体験(自分のきょうだいの性別)と関係があるようである。すなわち、男のきょうだいがいる者では男の子を希

表 36 1人しか産めない場合の子供の性の希望
(性別構成別, 二人っ子・三人っ子)

単位:人(%)

希 望	二 人 っ 子		三 人 っ 子			備 考
	男 1 人	女 1 人	男 2 人	男1女1人	女 2 人	
a	195 (30.0)	146 (24.8)	32 (25.8)	101 (32.9)	39 (23.9)	検定の結果, 注に示す群間で有意差あり。
b	167 (25.7)	207 (35.1)	33 (26.6)	83 (27.0)	57 (35.0)	
c	247 (38.0)	212 (36.0)	54 (43.5)	98 (31.9)	60 (36.8)	
d	41 (6.3)	24 (4.1)	5 (4.0)	25 (8.1)	7 (4.3)	
合 計	650(100.0)	589(100.0)	124 (99.9)	307 (99.9)	163(100.0)	

注) 二人っ子の男1人と女1人との間で5%水準で有意, 及び, 三人っ子の男1女1人と女2人との間で5%水準で有意。

表 37 1人しか産めない場合の子供の性の希望 (性別構成別, 二人っ子) 単位:人 (%)

希 望	兄がいる者	弟がいる者	姉がいる者	妹がいる者	備 考
a	106 (33.8)	89 (26.5)	68 (26.4)	78 (23.6)	検定の結果, 「妹がいる者」と「兄がいる者」(1%水準)・「弟がいる者」(5%水準)との間で有意差あり。
b	75 (23.9)	92 (27.4)	85 (32.9)	122 (36.9)	
c	119 (37.9)	128 (38.1)	97 (37.6)	115 (34.7)	
d	14 (4.5)	27 (8.0)	8 (3.1)	16 (4.8)	
合 計	314(100.1)	336(100.0)	258(100.0)	331(100.0)	

望する率が高く、きょうだいがいない者及び女のきょうだいがいる者では女の子を希望する率が高い傾向にある。

14. 男の子がほしい理由

1人しか産めない場合の、男の子を希望する理由については、次のように設問し、以下に示すような回答を得た。

【質問12】質問11で「男の子」がほしいと答えた人にうかがいます。男の子がほしいのはどうしてですか。次の中から選んで下さい。一つとは限りません。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| a. 育てやすいから。 | f. 夢を託せるから。 |
| b. 話し相手になるから。 | g. 老後世話になりたいから。 |
| c. 頼りになるから。 | h. 手放さずに済むから。 |
| d. 性質がさっぱりしているから。 | i. なんとなく。 |
| e. 跡継ぎになるから。 | j. その他 () |

(1) 出生位置別検討

表38に示すように、対象者全体の場合、「c. 頼りになるから」をあげる者が64.6%で最も多い。「d. 性質がさっぱりしているから」という理由も多い。全対象者の出生位置別比較では、他の群に比べて、長子で「f. 夢を託せるから」が多いこと、中間子で「e. 跡継ぎになるから」が多いこと、一人っ子でdが多くc・fが少ないことなどが指摘される。複数回答によったため、回答項目(理由)ごとに検定を実施してみた結果、表38のように、c・f・e・gの4項目で1～2の群間で有意な差が認められる。ただし、調査の実施年によって分け、結果の一貫性を確認したところ、1994年の結果では、fで長子と末っ子・一人っ子との間で、eで長子と中間子との間で、それぞれ統計的な有意差が認められるが、1993年の結果ではどの群間でも有意差は認められない。

出生位置別の差異をより厳密な条件で検討するため、二人っ子について長子と末っ子に分け、また、三人っ子について長子・中間子・末っ子に分けて、表38と同様な方法で集計し比較してみた(表39)。その結果、データとしても表38を裏づけるような傾向は認められず、また、統計的に有意な差が認められるのはhだけである。また、結果の一貫性を確認したところ、1994年の結果では、hで長子と末っ子との間で有意差が認められるが、1993年の結果では有意差は認められない。

(2) きょうだい数別検討

きょうだい数別検討では、一人っ子・二人っ子・三人っ子・四人以上について、表38と同様な方法で集計し比較した(表40)。その結果、きょうだい数の増加に伴う一定の増減傾向が認められる項目はなく、検定の結果、統計的に有意な差は認められるのは2項目で、cで一人っ子が少なく、hで三人っ子が多い傾向が認められる。ただし、結果の一貫性を確認したところ、1994年の結果では、hで二人っ子と三人っ子との間で有意差が認められるが、1993年の結果で

表 38 男の子がほしい理由（出生位置別，全対象者）

単位：人（％）

理 由	全 体	長 子	中 間 子	末 っ 子	一人っ子	備 考
c	377(64.6)	155(65.1)	39(60.0)	163(67.9)	20(48.8)	検定の結果，理由c・f・e・gで注2に示す群間で有意差あり。
d	265(45.4)	110(46.2)	32(49.2)	100(41.7)	23(56.1)	
f	124(21.2)	64(26.9)	11(16.9)	45(18.8)	4(9.8)	
e	108(18.5)	40(16.8)	19(29.2)	42(17.5)	7(17.1)	
h	84(14.4)	39(16.4)	12(18.5)	28(11.7)	5(12.2)	
a	68(11.6)	27(11.3)	9(13.8)	28(11.7)	4(9.8)	
g	44(7.5)	11(4.6)	7(10.8)	23(9.6)	3(7.3)	
b	28(4.8)	15(6.3)	1(1.5)	8(3.3)	4(9.8)	
i	53(9.1)	21(8.8)	4(6.2)	23(9.6)	5(12.2)	
j	30(5.1)	10(4.2)	3(4.6)	16(6.7)	1(2.4)	
基準数	584	238	65	240	41	

注1) 当てはまるものすべての場合。ここでは，頻度順に並べ替えて示した。

注2) cで一人っ子と長子・末っ子との間で各5%水準で有意。fで長子と末っ子・一人っ子との間で各5%水準で有意。eで中間子と長子・末っ子との間で各5%水準で有意。gで長子と末っ子との間で5%水準で有意。

表 39 男の子がほしい理由（出生位置別，二人っ子・三人っ子）

単位：人（％）

理 由	二 人 っ 子		三 人 っ 子			備 考
	長 子	末 っ 子	長 子	中 間 子	末 っ 子	
h	19(11.4)	18(10.3)	20(31.3)	9(18.0)	9(15.5)	注2の群間で有意差あり。
基準数	167	174	64	50	58	

注1) 当てはまるものすべての場合。ここでは，有意差が認められるものだけをあげた。

注2) hで三人っ子の長子と末っ子との間で5%水準で有意。

表 40 男の子がほしい理由（きょうだい数別，全対象者）

単位：人（％）

理 由	全 体	一人っ子	二人っ子	三人っ子	四人以上	備 考
c	377(64.6)	20(48.8)	224(65.7)	117(68.0)	16(53.3)	c・hで注2に示す群間で有意差あり。
h	84(14.4)	5(12.2)	37(10.9)	38(22.1)	4(13.3)	
基準数	584	41	341	172	30	

注1) 当てはまるものすべての場合。ここでは，有意差が認められるものだけをあげた。

注2) cで一人っ子と二人っ子・三人っ子との間で各5%水準で有意。hで二人っ子と三人っ子との間で1%水準で有意。

は有意差は認められない。

(3) 出生順位別検討

出生順位別検討では，第1子・第2子・第3子以降について，表38と同様な方法で集計し比較した。その結果，データとしても出生順位に伴う一定の傾向は認められず，検定の結果，どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

(4) 性別構成別検討

性別構成の違いによる検討では、第1報の「II 方法 3」の「(4)性別構成による分類」で示した分類と対象数について、表 38 と同様な方法で集計し比較した。その結果、データとしても一定の傾向は認められず、検定の結果、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

以上のように、一部のきょうだい関係において統計的に有意差の認められたものもあったが、結局、きょうだい関係と「男の子がほしい理由」との間に何らかの関係があるという結果は得られていない。

15. 女の子がほしい理由

1人しか産めない場合の、女の子を希望する理由については、次のように設問し、以下に示すような回答を得た。

【質問 13】質問 11 で「女の子」がほしいと答えた人にうかがいます。女の子がほしいのはどうしてですか。次の中から選んで下さい。一つとは限りません。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| a. 育てやすいから。 | g. 老後世話になりたいから。 |
| b. 話し相手になるから。 | h. かわいいから。 |
| c. 頼りになるから。 | i. 家事を手伝ってもらえるから。 |
| d. 性質が優しいから。 | j. なんとなく。 |
| e. 女同士理解しやすいから。 | k. その他 () |
| f. 夢を託せるから。 | |

(1) 出生位置別検討

表 41 に示すように、対象者全体的の場合、「b. 話し相手になるから」をあげる者が 63.8%で最も多い。「e. 女同士理解しやすいから」という理由も多い。

表 41 女の子がほしい理由 (出生位置別, 全対象者)

単位：人(%)

理由	全体	長子	中間子	末っ子	一人っ子	備考
b	397(63.8)	173(62.7)	49(74.2)	141(62.9)	34(60.7)	検定の結果、理由 i・c・f・g で注 2 に示す群間で有意差あり。
e	375(60.3)	168(60.9)	46(69.7)	127(56.7)	34(60.7)	
i	178(28.6)	68(24.6)	24(36.4)	65(29.0)	21(37.5)	
h	166(26.7)	72(26.1)	16(24.2)	65(29.0)	13(23.2)	
a	164(26.4)	74(26.8)	16(24.2)	55(24.6)	19(33.9)	
d	141(22.7)	56(20.3)	17(25.8)	54(24.1)	14(25.0)	
c	85(13.7)	50(18.1)	8(12.1)	19(8.5)	8(14.3)	
f	76(12.2)	32(11.6)	14(21.2)	29(12.9)	1(1.8)	
g	22(3.5)	8(2.9)	2(3.0)	6(2.7)	6(10.7)	
j	26(4.2)	7(2.5)	4(6.1)	14(6.3)	1(1.8)	
k	10(1.6)	6(2.2)	1(1.5)	3(1.3)	0(-)	
基準数	622	276	66	224	56	

注 1) 当てはまるものすべての場合。ここでは、頻度順に並べ替えて示した。

注 2) i で長子と一人っ子との間で 5%水準で有意。c で長子と末っ子との間で 1%水準で有意。f で一人っ子と長子 (5%水準)・中間子 (1%水準)・末っ子 (5%水準) との間、及び長子と中間子 (5%水準) との間で有意。g で一人っ子と長子・末っ子との間で 5%水準で有意。

全対象者の出生位置別比較では、他の群に比べて、一人っ子で「g. 老後世話になりたいから」、「i. 家事を手伝ってもらえるから」、「a. 育てやすいから」が多く、「f. 夢を託せるから」が少ないこと、中間子で「f. 夢を託せるから」、「b. 話し相手になるから」、「e. 女同士理解しやすいから」、「i. 家事を手伝ってもらえるから」が多いこと、などが指摘される。複数回答によったため、回答項目（理由）ごとに検定を実施してみた結果、i・c・f・gの4項目で1～3の群間で有意な差が認められる。ただし、調査の実施年によって分け、結果の一貫性を確認したところ、1993年の結果では、表41の注2にあげた理由と群の組み合わせがそっくりあてはまる形で、それぞれ統計的な有意差が認められるが、1994年の結果では有意差が認められるものが全然ない。

出生位置別の差異をより厳密な条件で検討するため、二人っ子について長子と末っ子に分け、また、三人っ子について長子・中間子・末っ子に分けて、表41と同様な方法で集計し比較してみた(表42)。その結果、全対象者の出生位置別比較でみられた傾向が確認され、統計的に有意な差はb・e・h・cの4項目で認められる。しかし、表41の結果と一致するのはcだけである。結果の一貫性の検討でも、1993年の結果では、bで三人っ子の長子と中間子との間で、hで三人っ子の長子と末っ子との間で、cで二人っ子の長子と末っ子との間で有意差が認められるが、1994年の結果では、eで三人っ子の中間子と末っ子との間で有意差が認められるだけであり、両年が一致する結果となっていない。

(2) きょうだい数別検討

きょうだい数別検討では、一人っ子・二人っ子・三人以上（四人以上が少数のため、三人っ子と合算）について、表41と同様な方法で集計し比較した（表43）。その結果、理由i・f・gで統計的に有意差が認められ、きょうだい数が増加するに従って、「f. 夢を託せるから」が増加し、「g. 老後世話になりたいから」が減少する傾向が認められる。しかし、結果の一貫性を確認したところ、1993年の結果では、iで二人っ子と一人っ子・三人以上との間で、fで一人っ子と二人っ子・三人以上との間で、gで一人っ子と三人以上との間で、それぞれ統計的な有意差が認められるが、1994年の結果では有意差が認められるものが全然ない。

表42 女の子がほしい理由（出生位置別，二人っ子・三人っ子） 単位：人(%)

理由	二人っ子		三人っ子			備考
	長子	末っ子	長子	中間子	末っ子	
b	136(63.6)	97(60.6)	32(56.1)	42(75.0)	40(66.7)	検定の結果，理由b・e・h・cで注2に示す群間で有意差あり。
e	130(60.7)	95(59.4)	34(59.6)	41(73.2)	32(53.3)	
h	61(28.5)	44(27.5)	10(17.5)	15(26.8)	21(35.0)	
c	36(16.8)	11(6.9)	13(22.8)	6(10.7)	8(13.3)	
基準数	214	160	57	56	60	

注1) 当てはまるものすべての場合。ここでは、有意差が認められるものだけをあげた。

注2) bで三人っ子の長子と中間子との間で、eで三人っ子の中間子と末っ子との間で、hで三人っ子の長子と末っ子との間で、各5%水準で有意。cで二人っ子の長子と末っ子との間で1%水準で有意。

表 43 女の子がほしい理由（きょうだい数別，全対象者）

単位：人（％）

理 由	全 体	一人っ子	二人っ子	三人以上	備 考
i	178(28.6)	21(37.5)	89(23.8)	68(35.4)	検定の結果，理由 i・f・g で注 2 に示す群間で有意差あり。
f	76(12.2)	1(1.8)	45(12.0)	30(15.6)	
g	22(3.5)	6(10.7)	13(3.5)	3(1.6)	
基準数	622	56	374	192	

注 1) 当てはまるものすべての場合。ここでは，有意差が認められるものだけをあげた。

注 2) i で二人っ子と一人っ子(5%水準)・三人以上(1%水準)との間で有意。f で一人っ子と二人っ子(5%水準)・三人以上(1%水準)との間で有意。g で一人っ子と二人っ子(5%水準)・三人以上(1%水準)との間で有意。

表 44 女の子がほしい理由（出生順位別，全対象者）

単位：人（％）

理 由	全 体	第 1 子	第 2 子	第 3 子以降	備 考
e	375(60.3)	202(60.8)	140(62.8)	33(49.3)	検定の結果，理由 e・c で注 2 に示す群間で有意差あり。
c	85(13.7)	58(17.5)	19(8.5)	8(11.9)	
基準数	622	332	223	67	

注 1) 当てはまるものすべての場合。ここでは，有意差が認められるものだけをあげた。

注 2) e で第 2 子と第 3 子以降との間で 5%水準で有意。c で第 1 子と第 2 子との間で 1%水準で有意。

(3) 出生順位別検討

出生順位別検討では，第 1 子・第 2 子・第 3 子以降について，表 41 と同様な方法で集計し比較した（表 44）。その結果，理由 e・c で統計的に有意な差は認められるが，データとして出生順位に伴う一定の傾向は認められない。結果の一貫性については，1993 年の結果では第 1 子と第 2 子との間で有意差が認められるが，1994 年の結果では有意差が認められるものはない。

(4) 性別構成別検討

性別構成の違いによる検討では，第 1 報の「II 方法 3」の「(4)性別構成による分類」で示した分類と対象数について，表 41 と同様な方法で集計し比較した。結果は，表 45・46 に示すように数項目において統計的に有意な差が認められる。「b. 話し相手になるから」や「i. 家事を手伝ってもらえるから」をあげるのは男のきょうだいがいる者に多い傾向にあり，「a. 育てやすいから」や「d. 性質が優しいから」をあげるのは女のきょうだいがいる者に多い傾向にある。さらに，二人っ子の場合では，男のきょうだいがいる者に「f. 夢を託せるから」をあげるものも多い傾向にあり，下にきょうだいがいる者に「c. 頼りになるから」をあげるものが多い傾向にある。しかし，結果の一貫性の検討結果では，1993 年実施分と 1994 年実施分との間に一致して有意差が認められるのは d の「弟がいる者」と「姉がいる者」との間だけで，一貫する傾向は得られていない。

以上のように，どのきょうだい関係の検討からも，きょうだい関係と「女の子がほしい理由」との間に有意差が認められる結果が得られているが，それらの結果の一貫性は低く，偶然的な要素が強いと判断される。

表 45 女の子がほしい理由（性別構成別，二人っ子・三人っ子） 単位：人（%）

理 由	二 人 っ 子		三 人 っ 子			備 考
	男 1 人	女 1 人	男 2 人	男1女1人	女 2 人	
b	110(65.9)	123(59.4)	27(81.8)	52(62.7)	35(61.4)	検定の結果，理由b・i・a・d・fで注2に示す群間で有意差あり。
i	46(27.5)	43(20.8)	12(36.4)	33(39.8)	13(22.8)	
a	32(19.2)	65(31.4)	7(21.2)	15(18.1)	22(38.6)	
d	25(15.0)	60(29.0)	8(24.2)	11(13.3)	16(28.1)	
f	31(18.6)	14(6.8)	4(12.1)	14(16.9)	9(15.8)	
基準数	167	207	33	83	57	

注1) 当てはまるものすべての場合。ここでは，有意差が認められるものだけをあげた。

注2) bで男2人と男1女1人・女2人との間で，各5%水準で有意。iで男1女1人と女2人との間で5%水準で有意。aで男1女1人と女2人との間で1%水準で有意。dで男1人と女1人（1%水準）の間及び男1女1人と女2人（5%水準）の間で有意。fで男1人と女1人との間で1%水準で有意。

表 46 女の子がほしい理由（性別構成別，二人っ子） 単位：人（%）

理 由	兄がいる者	弟がいる者	姉がいる者	妹がいる者	備 考
a	13(17.3)	19(20.7)	26(30.6)	39(32.0)	検定の結果，理由a・i・d・c・fで注2に示す群間で有意差あり。
i	24(32.0)	22(23.9)	20(23.5)	23(18.9)	
d	15(20.0)	10(10.9)	27(31.8)	33(27.0)	
c	3(4.0)	18(19.6)	8(9.4)	18(14.8)	
f	15(20.0)	16(17.4)	4(4.7)	10(8.2)	
基準数	75	92	85	122	

注1) 当てはまるものすべての場合。ここでは，有意差が認められるものだけをあげた。

注2) aで「兄がいる者」と「妹がいる者」との間で5%水準で有意。iで「兄がいる者」と「妹がいる者」との間で5%水準で有意。dで「弟がいる者」と「妹がいる者」・「姉がいる者」との間で，各1%水準で有意。cで「兄がいる者」と「弟がいる者」（1%水準）・「妹がいる者」（5%水準）との間で有意。fで「兄がいる者」と「姉がいる者」（1%水準）・「妹がいる者」（5%水準）の間及び「弟がいる者」と「姉がいる者」（1%水準）・「妹がいる者」（5%水準）との間で有意。

16. 女の子をほしがる理由

最近の厚生省人口問題研究所などの調査結果によると，少子化に伴い，男の子よりも女の子をほしがる親が増える傾向にあるので，この理由を設問に採り上げてみた。女の子を希望する親が増える傾向にある理由については，次のように設問し，以下に示すような回答を得た。

【質問14】以前と違って最近では，男の子よりも女の子をほしがる（産みたがる）親が増える傾向がありますが，それはどのような理由からだと思われますか。次の中から一つを選んで，記号に○印をつけて下さい。

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| a. 育てやすいから。 | f. かわいいから。 |
| b. 話し相手になるから。 | g. 老後同居しやすいから。 |
| c. 頼りになるから。 | h. 男より苦勞が少ないから。 |
| d. 性質が優しいから。 | i. わからない。 |
| e. 夢を託せるから。 | j. その他（ ） |

(1) 出生位置別検討

表 47 に示すように、対象者全体的場合、女の子をほしがる理由として、「b. 話し相手になるから」、「a. 育てやすいから」、「d. 性質が優しいから」などが上位にあげられている。「i. わからない」と答えた者も 16.4% いる。全対象者の出生位置別比較では、特に違った理由を多くあげる群はなく、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

出生位置別の差異をより厳密な条件で検討するため、二人っ子について長子と末っ子に分け、また、三人っ子について長子・中間子・末っ子に分けて、表 47 と同様な方法で集計し比較してみた。その結果、特に違った理由を多くあげる群はなく、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

(2) きょうだい数別検討

きょうだい数別検討では、一人っ子・二人っ子・三人っ子・四人以上について、表 47 と同様な方法で集計し比較した。その結果、きょうだい数の増加に伴う一定の増減傾向は認められず、どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

(3) 出生順位別検討

出生順位別検討では、第 1 子・第 2 子・第 3 子以降について、表 47 と同様な方法で集計し比較した(表 48)。その結果、第 1 子と第 3 子以降、第 2 子と第 3 子以降との間で有意な差が認められ、出生順位が後になるほど、「b. 話し相手になるから」、「a. 育てやすいから」という理由は少なくなる傾向にあり、「d. 性質が優しいから」、「f. かわいいから」などという理由は多くなる傾向にある。しかし、結果の一貫性を検討してみると、両年ともに同様な傾向を示しているのは d だけである。検定でも矛盾した結果になっており、1993 年では第 1 子と第 3 子以降の間で、1994 年では第 2 子と第 3 子以降との間で有意な差が認められる。

(4) 性別構成別検討

性別構成の違いによる検討では、第 1 報の「II 方法 3」の「(4)性別構成による分類」で示した分類と対象数について、表 47 と同様な方法で集計し比較した。その結果、データとしても

表 47 女の子をほしがる理由 (出生位置別, 全対象者)

単位: 人 (%)

理由	全体	長子	中間子	末っ子	一人っ子	備考
b	441 (21.2)	200 (22.3)	40 (17.2)	165 (20.9)	36 (21.7)	検定の結果, どの群間でも有意差なし。
a	382 (18.3)	172 (19.2)	41 (17.6)	133 (16.8)	36 (21.7)	
d	232 (11.1)	90 (10.0)	34 (14.6)	93 (11.8)	15 (9.0)	
h	228 (10.9)	87 (9.7)	21 (9.0)	100 (12.7)	20 (12.0)	
f	222 (10.6)	89 (9.9)	24 (10.3)	94 (11.9)	15 (9.0)	
c	101 (4.8)	50 (5.6)	9 (3.9)	34 (4.3)	8 (4.8)	
g	74 (3.5)	35 (3.9)	4 (1.7)	31 (3.9)	4 (2.4)	
その他	405 (19.4)	173 (19.3)	60 (25.8)	140 (17.7)	32 (19.3)	
合計	2085 (99.8)	896 (99.9)	233(100.1)	790(100.0)	166 (99.9)	

注) ここでは、頻度順に並べ替えて示し、回答数の少なかった e・j と i を合わせて「その他」とした。

表 48 女の子をほしがる理由（出生順位別，全対象者）

単位：人（％）

理 由	全 体	第 1 子	第 2 子	第 3 子以降	備 考
b	441 (21.2)	236 (22.2)	160 (20.6)	45 (18.4)	検定の結果，第 1 子と第 3 子以降，第 2 子と第 3 子以降との間で，各 5 %水準で有意差あり。
a	382 (18.3)	208 (19.6)	135 (17.4)	39 (15.9)	
d	232 (11.1)	105 (9.9)	93 (12.0)	34 (13.9)	
h	228 (10.9)	107 (10.1)	91 (11.7)	30 (12.2)	
f	222 (10.6)	104 (9.8)	84 (10.8)	34 (13.9)	
c	101 (4.8)	58 (5.5)	34 (4.4)	9 (3.7)	
g	74 (3.5)	39 (3.7)	28 (3.6)	7 (2.9)	
その他	405 (19.4)	205 (19.3)	153 (19.7)	47 (19.2)	
合 計	2085 (99.8)	1062(100.1)	778(100.2)	245(100.1)	

注) ここでは，頻度順に並べ替えて示し，回答数の少なかった e・j と i を合わせて「その他」とした。

一定の傾向は認められず，検定の結果，どの群間でも統計的に有意な差は認められない。

以上のように，きょうだい関係と「女の子をほしがる理由」との間には，出生順位との間にだけ若干の関係があるような結果となっているが，意味のある傾向とは言えない。

IV ま と め

以上，青年後期にあたる女子短大生を対象に探索的な調査研究を実施し，きょうだい関係と意識（意見・態度。特に，子供観）の関連について，多面的に実証的な検討を試みた。

今回は，第 1 報に引き続き，意識調査の一部の項目（⑧子供についての考え方，⑨一人っ子を避ける理由，⑩子供を増やすことについての考え，⑪ 1 人しか産めない場合の子供の性の希望，⑫男の子がほしい理由，⑬女の子がほしい理由，⑭女の子をほしがる理由）についての結果を報告したが，前回報告分と同様に，きょうだい関係の違いによる意識（子供観）の差異は，あまり多く見られなかった。

今回報告分の結果で統計的に有意差が認められた項目はいくつかあったが，結果の一貫性(安定性)などの面で問題を含んでいるため，結論として言えるものは，次の点だけである。すなわち，1 人しか産めない場合の子供の性の希望は，必ずしも明確には言えないが，きょうだいの性別体験（自分のきょうだいの性別）と関係があり，男のきょうだいがいる者では男の子を希望する率が高く，きょうだいがいない者及び女のきょうだいがいる者では女の子を希望する率が高い傾向にある。

2 回にわたって報告した意識調査の結果は，「きょうだい関係による差異はあまり認められない」という点では，これまでに筆者が行ってきた「きょうだい関係と性格」の諸研究の結果とおおよそ一致するものである。ただし，このような結果が得られたからといって，直ちに青年後期におけるきょうだい関係と意識（意見・態度）との関連を否定するものではない。今回の調査によって，また一つ，否定的な結果が得られたことだけは確かである。

慎重な言い方をすれば、本研究の対象者についてきょうだい関係による意識（意見・態度）の差異があまり確認されなくても、他の対象者では差異が認められるという場合も考えられるので、同一項目による調査を別の対象者に実施する交差妥当性の研究又は結果の一貫性確認の研究が必要であり、また、男子を含めて、多数の対象者について多面的なデータを集め、性別・発達段階別などを加味した詳細な分析・検討も必要である。

第1報の「はじめに」にも述べたように、既存の研究には、青年後期・成人期の者を対象にしたものが少ないことも、一般化に慎重を要する点である。青年後期・成人期の者を対象に諸調査を実施するなど、多方面からのデータの蓄積を行ってからでないと、一般化や断定的な判断はできないであろう。仮に、幼少期の性格形成に大きかったきょうだい関係の影響が、年長になるにつれて次第に低減していくとすれば、どの発達段階まで影響を及ぼすのか、縦断的研究も必要である。

なお、第1報の「II 方法1(1)」でも述べたように、誌面の関係で3分割したものの一つ「性差観に関する8項目」(①女に生まれたことの感想、②生まれ変わるときの希望の性、③男に生まれ変わりたい理由、④また女に生まれたい理由、⑤男女の能力差の認識、⑥家庭等での差別的扱いの経験、⑦結婚後の親との同居についての考え、⑧親と同居する場合の希望) についての結果は、別に報告する予定である。

文 献

- 1) 白佐俊憲：きょうだい関係と意識—1. 子供観調査による検討(1)—, 北海道女子大学短期大学部研究紀要, 33号, 15~36, 1997.
- 2) 白佐俊憲：きょうだい関係と性格—1. YG性格検査による検討—, 北海道女子短期大学研究紀要, 29号, 1~16, 1993.
- 3) 白佐俊憲：きょうだい関係と性格—2. 自己評定による検討—, 北海道女子短期大学研究紀要, 30号, 1~15, 1994.
- 4) 白佐俊憲：きょうだい関係と性格—3. 文献による検討—, 北海道女子短期大学研究紀要, 31号, 1~16, 1995.
- 5) 白佐俊憲：きょうだい関係と性格—4. SPI検査による検討—, 北海道女子短期大学研究紀要, 32号, 1~15, 1996.
- 6) 白佐俊憲：きょうだい関係と意識—3. 性差観の検討—, 人間福祉研究(北海道女子大学紀要), 創刊1巻, 15~35, 1998.